

活動の総括と自走化に向けて

指定期間で

分かったこと

- ① 中学生、教員、保護者に工業高校の魅力を伝える事が可能。
- ② 企業のヒト・コト・モノを活用した行事は生徒の好奇心を刺激する。
- ③ 企業人と協働する授業は楽しいが少し難しい。生徒の学習意欲を高めるが、波及人数は限定的。

文科省伴奏事務局からのフィードバック

3年で効果的な取組成果を生み出し、更には自走に向けた絵が描かれつつある。残りの期間で各機関それぞれが達成したいことを明確にした上で、連携体制の確立を目指したい

出来た事(事業の成果・評価される点)

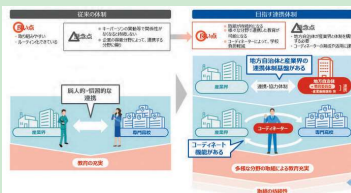
- ・ビジョン作成と共有・PDCAサイクルの実現
浜松型デジタル人材の育成ビジョンを定義し、PDCAサイクルを構築
- ・校内の推進体制の構築
業務効率化を含めたプロジェクト体制を整備
- ・企業との連携の実施
ヤマハ発動機との連携が進展し、更には他企業との協働も進行中
- ・生徒の主体性の引き出し
生徒の意志や主体性を引き出す取り組みと、発表の機会が生まれている
- ・学校から周囲へのPR発信
地元中学生や本校保護者に向けてMH事業や学校の魅力を効果的に伝達

今後の課題

- ・浜松市のエコシステム構築と持続可能性の担保(属人性的の脱却)
- ・静岡県(西部)の産業人材育成システムの構築についての検討

今後の展望と提案

- ・協働体制の強化：水平関係の構築と中長期ビジョンの策定
- ・自走の資金確保：自走化に向けた資金調達の検討



※参考：「令和6年度MH普及促進事業公募のポイント」より抜粋

コーディネーター機能を設け、学校負担を減らすと同時に、属人的関係から組織的・水平的関係を目指すことを示唆

中長期ビジョン案

- 1st 浜松版マイスターを城北工業高校で確立
 - ・浜松市(教育or産業部)が中心管理機関
 - ・産業実務家教員は県教育委員会から派遣
 - ・コーディネーターは産業界から派遣
 - ・協力企業はビジョンに共感した企業が無償参画
- 2nd 工業高校を対象にMH活動校を複数校へ展開
 - ※普及観点で何を展開しようという姿を目指すかも検討
- 3rd 工高&製造業の成功例を他校&他業種に広げ
静岡県(西部)の産業人材育成システムを構築

R9年度以降に目指す体制



浜松型・静岡県西部地区

良い点
取組が持続的になる
様々な分野で連携した教育が可能になる
コーディネーターによって、学校負担軽減

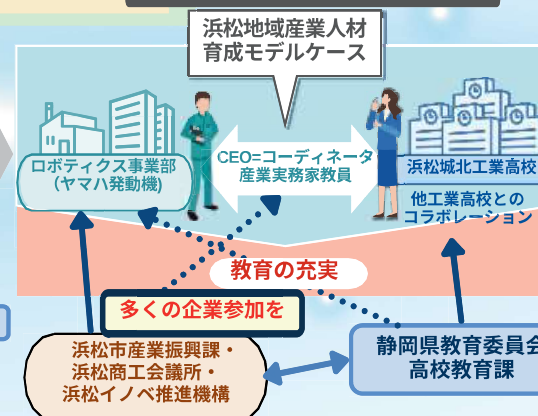
懸念点
自治体や産業界と体制の構築が必要
コーディネーターの育成や活用に課題
導入時に現場教員の負担が増える
産業実務家教員の人数選
コーディネーターと実務家教員の人員費の負担は企業？自治体？

R4-6年度 MH事業の体制



文部科学省指定校

R7-8年度 自走化準備体制



マイスター・ハイスクール事業 指定校後の浜松型マイスター自走化事業 中期・長期構想



従来(左図)の有効性を残しつつ、現状(中央図)の体制を整備し、地域に根付いた自走に取組み、将来の持続性や多様性を目指す

4 管理機関あいさつ



「優良案件“続城北マイスター・ハイスクール事業“に投資を」

東京大学

名誉教授 佐藤 知正

（優良案件）浜松城北マイスター・ハイスクール事業は、これまで3年間優れた活動成果をあげ、その継続が確実に高校でのイノベーション人材輩出につながる状況となっている。以下はその比喻説明である。筆者は、“バイブル”、“教会ミサ”、“パトロン”の庇護と宣教師”が、キリスト教を世界宗教にしたと考えている。本事業をこれとのアナロジーで説明すると、成果は次の2点に集約される。成果1) プロジェクトドリブン・スパイラルアップ®・グローバルカリキュラムが“ふりかけ教材”として確立されたこと【これはキリスト教におけるバイブルに相当する】。成果2) 生徒主体の生徒自身の作品集づくりイベント（Johoku-1 グランプリ）の効果が実感されたこと【キリスト教会におけるミサに相当】。これらの成果に今後、投資をともなう社会普及活動（教えることによる社会人の教育）【これは、パトロンに支援された宣教師活動に相当する】が加われれば、本事業は高校の人材育成に資するのみでなく、育成人材を通じて浜松地域の産業振興に貢献し、世界展開をも可能にする。本事業は、優良案件なのである。

（地域投資の勧め）このように本事業は、生徒の学びにおいて、成果をあげてきた。今後は、その生徒を受け取る社会の出番である。社会は、何をすべきか？まず、地域社会がパトロンとして支援、いや投資することである。具体的には、人とモノ（含場所）と資金を提供し続けること、社会人が生徒の教育にかかわること（を通じて“教えることにより自分の経験を体系化した学び”を可能にすること）である。これが学校の人材育成のみならず、地域の人の人材育成に資し、ひいては地域の産業振興に結び付く。このような投資は、やらまいか精神の発揮のしどころではないか。本優良案件に、大いに“やらまいか精神”を発揮して、投資して下さることを祈念して筆をおきたい。



「地域と産業をつなぐロボティクス人材育成の新たな一歩」

静岡県教育委員会

教育監 塩崎 克幸

マイスター・ハイスクール運営委員会にて委員長を務めさせていただいております塩崎です。令和4年度より3年目を迎えた本事業は、ロボティクス人材育成にフォーカスし、産官学が一体となり地域特有の課題やニーズに応える形で進化を遂げてまいりました。持続可能な人材育成の礎となると確信しております。

特に本事業を通じて生まれた2つの学校設定科目、「ロボティクス概論」と「ロボティクス実習」は、ロボティクス技術を習得するだけでなく、地域社会とのつながりや協力の重要性を、地域産業の現場での活動を通じて理解する、より実践的な学びを提供するものであり、大きな成果であると捉えています。この活動を通じて地域の産業界との連携を深めた生徒たちは、将来の職業選択においても自信を持ち、地域社会に貢献できる人材へと成長していくことでしょう。

これも、管理機関や地域企業の皆様のご支援のおかげであり、深く感謝申し上げます。

令和7年度以降は、これまで以上に地域社会と産業界が主体となり人材育成に取り組む「自立型エコシステム」として発展させていくことについて、一定の道筋が明確化しました。

県教育委員会としても静岡県の産業の発展のために、地域に開かれた学校を支援し、次代を担う若者たちが夢を持ち、活躍できる未来を築いてまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



「ロボット活用の背景とロボティクス人材の重要性」
ヤマハ発動機株式会社
執行役員ソリューション事業本部長 江頭 綾子

少子高齢化に伴う労働力不足が深刻化する中、ロボットの活用が重要です。昨年、日本の出生数が初めて70万人を割り込み、2024年の日本人の人口は1億2156万1801人となり、前年より86万人減少しました。これは山梨県の総人口に匹敵する減少です。

生産年齢人口も2070年には約4割減少する見込みであり、すでに物流、建設、医療などの現場では、2024年問題と呼ばれる人手不足が顕著です。

このような背景において、自動化できる部分はロボットに任せ、人は人にしかできないことに集中することが加速しています。ロボットによる作業の遠隔化、軽労化、省スキル化が進んでおり、ロボットを同僚や相棒と見立て、一人の技能者ができる業務を最大化する取り組みも増えています。

これからの社会では、ロボットと人間が協力し合い、効率的かつ高品質な業務を実現することが求められます。産業用ロボットの導入と技術革新に加え、ロボットを設計・運用・保守する人材の育成、つまり、マイスター・ハイスchoolのように、産学官の連携による人材育成と技術高度化が求められます。

浜松城北工業高校の皆さんも、ロボット技術の進展に注目し、自らの力を最大限に発揮できるスキルを身につけてください

参考 Web Link: [ヤマハ発動機スマートファクトリー Value Innovation Factory](#)



「今後の横展開へ期待を寄せて」
浜松市 産業部
部長 北嶋 秀明

昨今の人手不足の問題は、本市の基幹産業である製造業においては、特に深刻で、多くの企業の皆さんからご相談をいただいております。

そのような状況の中、「高校」と「企業」という全く違う組織が連携し、専門高校に産業人材を取り入れ、実習や研修等を行うマイスター・ハイスchool事業という先進的な取組が、ここ浜松で実施できることを誇りに思っています。

また、本事業も3年目を迎え、ロボットやデジタルで課題解決できる人材の育成や地元企業への就職など、すでに大きな効果がでていくことを大変嬉しく思います。

本事業は、生徒が受け身で参加しているのではなく、学校生活では聞くことのできない企業人の生の声を聞き、刺激を受け、主体的に考えて実際に動くという、社会で必要とされる能力を育成する場となっています。高校生のうちにこのような機会に触れることは、個人の成長にとどまらず、今後の浜松の産業界にとっても大変貴重な財産です。

今後は、この素晴らしいモデルケースをぜひ他の高校・企業にも展開し、産業界を担う人材が活躍し、「ものづくりのまち 浜松」がますます発展していけるよう、全力でサポートしていきます。

参考 Web Link:

[マイスター・ハイスchool/浜松市](#)



[第2期はままつ産業イノベーション構想](#)

